

【市政懇談会 質疑応答】 大楽毛生活館（平成 25 年 8 月 26 日（月）18:30）

【参加者 A】

防災に関してお聞きします。

新聞報道にもありましたが民間の障がい者施設、とりわけ病院や医療関係の施設を避難施設として利用させていただくということについて、市と施設との間での話し合いがどの程度進んでいるのでしょうか。

【総務部長】

病院については、お願いしたところ、概ね皆さんご協力いただけるという感触を得ています。ただ、大きな病院の場合、まず負傷者への対応を最優先していただくということで、今現在、市で指定するということまで考えておりません。その他のビルなどに最優先に避難していただき、病院は負傷者の対応に全力で当たってほしいと考えております。

【参加者 A】

大楽毛地区では優心病院が避難施設になっていますが、先日病院の方とその件について話をしたら「市との話し合いは進んでいない。前に一度話をしたが、病院側の対応の問題やその他の問題があり、市の方で持ち帰って検討するといったきりなしのつぶてだ」と言われました。

【総務部長】

現在、優心病院については、この地域の避難施設には指定されております。

【参加者 B】

津波の関係の質問です。

大楽毛南地区には 10m の波がくると言われておりますが、その時にどうするか。今のところ避難困難地域ということで、マップの中には特に具体的に、どのように避難するのが望ましいという方法が示されておられません。

車で逃げざるを得ない場合、これまでは「釧路新道が高所にあるため、避難場所として使えるのではないか」という考え方を持っていました。ところが、現実には、南東向きに、山を削ってできた崖がずっと伸びています。一方、釧路新道は南西に向いており、V字型になっています。南からの津波に対し、山の崖と新道の盛土が壁となり、波が盛り上がってくるのではないかと心配しています。できればシミュレーションしてほしい。そのうえで、安全だという確信を持ってからでなければ新道には逃げられないと思います。

釧路高専からは「高専は避難施設だから、まずは地域住民優先に避難してもらい、学生には新道に上がってもらいます」という配慮をいただいておりますが、その新道が危険であるということであれば問題になると思います。

【市長】

シミュレーションまでとはいきませんが、土木工学の見地から開発建設部に確認した上で報告したいと思います。

【参加者C】

今の話を受けて質問しますが、津波が来るとしたら、優心病院に逃げれば助かるということで、本当にそれでいいのか確認したいと思います。

【市長】

そのとおりです。

【参加者D】

優心病院の避難施設としての問題点として、地域に避難場所として開放できるのは最上階の5階のみで、以下の階は病室で一般の方は入れないということが挙げられると思います。屋上は手すりもないので一切立ち入れないということで、5階のスペースにどれくらいの人員を収容できるか尋ねたら、せいぜい450名とのことでした。これでは、この地域一帯がそれを頼ることはできません。

それから、大楽毛小学校には350人程の生徒がいますが、平日の昼間に大津波が来た時に、子どもを優心病院に逃がそうとすると、国道38号線を横断させて病院に避難させることになります。

学校側としては「それはできない。よって優心病院を避難場所とは考えていない。直ちに釧路新道に向けて走らせる」とのことです。そういう状況だということをご理解願いたいと思います。

【市長】

今後の住民説明会などにより、具体的な課題について、地域の皆さんと協議していきたいと考えています。

【参加者E】

釧路新道も途中で低いところがあります。大楽毛の人を全員収容できるとは考えにくいと思います。

また、現在、釧路市から若い人が都会に流出しています。学校を卒業後、釧路から東京や札幌へ出ていってしまいます。

いざ災害があった場合には、高齢者だけで避難するにも限界があります。若年層の流出の原因が何かお考えいただき、若者が釧路に定住する方法を考えていただきたいと思います。

【市長】

釧路新道には低いところもありますが、シミュレーションの中では問題な

いとされており、現段階では釧路新道が避難先として確保できるとされており、これは、北海道が考える最大の津波が来た場合でも大丈夫だとされており、個別の箇所についてご不安な点があれば、お聞きして住民説明会までに報告できるようにしたいと思います。

もう一点、若年層の人口流出についてです。

日本全体で、地方に生まれ雇用や教育を求めてさまざまなところに出ていくという仕組みが構築されてきたというのが地方都市の実態だと思います。

しかしその対策は、地方が考えなければなりません。実際に、若い方でもできることなら地元で働きたいという思いがあると考えています。だから、この地域に、地域資源を生かして働く場所を作ることに取り組んでいます。農業、食料など、この地域の強みを雇用につなげていくことで、若い方がその地域の中で働いて暮らしていけるように、そういう取り組みをしっかりと進めていきたいと思っています。

学生が町内会に入って議論を作っているという事例もあり、今の若者の、お年寄りから知恵や指導をいただきながら暮らしたいという意識は高いように感じています。

【参加者 F】

市長には、釧路港を活用した物流ということで、国際バルク戦略港湾への選定に率先的に取り組んでいただき、結果として全国で 73,000 筆の署名が集まったところです。雇用は、今日、明日生まれるものではなく、中長期的な視点で考えていくべきだと思います。台湾の観光客の呼び込みなどさまざまな取り組みをされていますが、評価したいと思っています。

さて、三つほど要望があります。

一つ目は、市内に点在する政党・政治家の違法設置看板の撤去についてです。春日町公園を例にとると、一つの公園の中におよそ 40 枚の看板があります。また、鳥取 4 丁目の公営住宅や小学校にもあるのが現状です。

観光都市を謳い、阿寒湖を世界遺産にするという取り組みをする中で、未だに心無い政治家が公有地に看板を立てたままにしている現状がありますので、それに目を光らせていただきたいと思います。

二つ目に、防災の観点から市立病院の透析についての要望です。

万が一津波が発生した場合、清水が一週間持たないくらいしか備蓄がないと聞きました。市内の他の透析病院の機能が停止し、市立病院に患者が集中した場合、大変なことになるということでした。そのあたりも配慮いただきたいと思います。

また、市立病院には医療費を滞納する心無い市民が多いとも聞きました。市の財政の観点からも、しっかり対策に取り組んでほしいと思います。

三つ目に、町内会が回収する資源ごみの交付金についてです。

帯広の町内会の方とお話をする機会があったが、帯広市では、町内会で集めた古紙を 4 円で回収しているそうです。ペットボトル以外のものに対して、

町内会に助成金を出して回収していただくことで、行政のコスト削減をしているとおっしゃっていました。釧路市の話をしたら、帯広市の職員からは「ごみの有料化や分別に率先して取り組んできた釧路らしくない対応だ」と言われました。町内会活性化や行政負担軽減の観点からも含めて、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

【総務部長】

東日本大震災の後、全国的に清水が不足したという実態がありました。このときには、市立病院でも一時的に確保に苦慮いたしました。

現在は、市内の薬剤師会とも連携しながら、常時確保できる体制が構築できるよう協定を結ぶなど、何とか確保していく方向で動いております。先の震災のように、全国的に不足する事態が起これば話は別ですが、現状では何とか対応できるだろうという見込みではあります。

【都市整備部長】

政党・政治家の看板につきましては、以前から多くの要望をいただいておりますが、引き続き対応していきたいと考えております。

【市民環境部長】

町内会に取り組んでいただいている資源ごみの回収についてですが、確かに帯広市が全道で一番高いと思います。比べると釧路市は1キログラム当たり2円と安くなっています。また釧路は古紙のみの対応となっており、そういった違いはございます。もっと推進していくためには、そういったことも大事な視点ではあると思っておりますので、検討させていただきます。

【参加者B】

かねてよりお願いしておりました長沼の浄化対策にいよいよ取り組んでいただけるようですが、具体的な内容をお聞かせください。

【都市整備部長】

昨年からの要望を受け、今年度予算の中にもありますとおり、まず実態把握のため今年8月末までを目途に測量を行っております。

一方、環境部局で流れ込んでくる排水等の水質調査を行うなど、庁内に長沼浄化対策検討協議会を設置し、道路河川課、環境保全課、水産課、産業推進室、都市経営課が集まって現状を調査し、それから具体的な方法を検討していくという取り組みを進めております。

なかなか一年や二年ですぐに結果は出ませんので、地道に調査・研究を進めてまいりたいと考えております。

【参加者C】

釧路駅周辺整備推進事業で58万円を計上されていますが、以前にあった議論と同じものなのでしょうか。

いずれにせよ、前回と同じようにインターネットやメール等で議論できる環境をつくっていただきたいと思います。

【市長】

釧路駅周辺整備推進事業については、新たに防災の視点から検討が必要だと話をさせていただいております。

橋南エリアの全てが津波浸水区域となり、どうやってあの地域から避難をするかが課題となっています。現実的に多くの車が往来している場所ですので、車等の避難路の確保が重要です。このための鉄道高架の議論です。

平成19年には、まちづくりの観点での高架の議論がありました。今回は、防災の観点から避難路を考えたときに、鉄道で南北が分断されている現状がいかげなものか。また、それを受けて駅や周辺をどうしていくのか。もちろんまちづくりの観点からも検討しますが、順番としては防災・安全性の確保を最優先に検討していくということです。

今財政健全化推進プランの前期5ヶ年のちょうど3年目に入るところですので、この期間中に実施するというものではありませんが、財政の健全化を踏まえながら、防災のさまざまな事業に取り組む中で併せて検討しております。

新たな津波シミュレーションを受けた中で実際にどう人を救っていくかという観点で進めていこうと考えております。